

〈原著論文〉

保育者養成校の行う地域子育て支援事業の捉えなおし —サービスラーニングの視点から相対的に理解するための試み

Reexamining Community-based Childcare Support with Students in Service-Learning Context

宮里 慶子¹, 岸本 みさ子², 串崎 幸代³, 辻 ゆき子⁴

要旨

地域の未就園の乳幼児親子を対象に地域子育て支援事業を展開している保育者養成校は増え、その実践報告・研究が一定蓄積されてきている。本稿では先行研究のレビューを行い諸研究を概観し、サービスラーニングの視点からそれらを捉えなおし、大きく3つの課題を抽出する。第1には子育て支援事業を利用する対象研究や地域研究が進んでいないこと、第2に親子と学生他の利益を両立させる互恵性および複数の視点からの評価が希薄なこと、第3に参加する学生の学習方法を開拓することである。

キーワード：保育者養成，地域子育て支援，サービスラーニング，互恵，省察

child-care worker training, community-based childcare support, service-learning, reciprocity, reflection

1. はじめに—問題の所在

本学児童教育学科（旧児童学科）では2007年度より「金蘭おやこクラブ」という地域子育て支援事業を開始し、2017年で11年目を迎えた。その間、実践の積み重ねによる反省、カリキュラム変更、その他の事情により、運営方法、スタッフ体制、体験授業として参加する学生への指導方針・方法等が少しずつ変更されてきた。2017年度からは、担当教職員の入れ替わり、新規ひろば事業の開始等を期に、これまでを振り返り、新たな体制で取り組みは始めている。

そのなかで改めて教職員間で議論になったのは、子育て支援事業と学生の授業との両立の仕方、ジレンマである。授業の枠組みによって子育て支援事業に制約が発生し、諸調整が求められ、保育者養成校以外が行う子育て支援と異なる独特の特徴・困難があり、本学に限らず試行錯誤で取り組まれているのが現状である（保坂ら、2012）。

保育士、幼稚園教諭、保育教諭の養成課程をもつ四年制大学や短期大学、専門学校等の保育者養

成校（以下、養成校）で地域子育て支援事業を展開しているところは増えている。養成校対象の調査報告（小原ら、2016；大元ら、2010；福井・小栗・瀧川、2008）によって、多くの養成校が取り組んでいること、事業の運営形態や学生参加の方法—学生参加が進んでいない、ボランティア参加、選択または必修科目授業として活用されている—まで、多様な実態が明らかになっている。また、各養成校の実践報告や研究論文が蓄積されてきている。

これら諸研究のひとつの結実した形として入江・小原・白川（2017）、塚本・藪中（2015）のテキストも出版された。上記テキストは学生を主な読者として想定し、理想的な事例提示があり、実践を促し読みやすく整理されている。だが、養成校の多様な実態とその課題を考えると、本学含め自分たちの実践がどこに位置づけられ、今後どのような方向性を目指すべきなのか明確になったとはいえない。研究は端緒についたばかりであり、未だ整理・議論されていないことが多くある。

そこで、本稿では、養成校の行う子育て支援事

1	Keiko MIYAZATO	千里金蘭大学	生活科学部	児童教育学科	受理日：2017年9月8日
2	Misako KISHIMOTO	千里金蘭大学	生活科学部	児童教育学科	査読付
3	Yukiyo KUSHIZAKI	千里金蘭大学	生活科学部	児童教育学科	
4	Yukiko TSUJI	千里金蘭大学	生活科学部	児童教育学科	

業の共通の構造、特に限界や課題について見据え、今後の方向性を考える基礎研究として、まず学生の参加実態のある養成校が行う子育て支援事業に関する先行研究をレビューし、その傾向を探る。そして、サービスラーニングの視点から、養成校が行う子育て支援事業について何が論じられ、また、十分論じられていないのかを検討し、子育て支援事業と参加学生の学びについての問い直しの必要と今後の展望について論じる。

なお、2008年の「保育所保育指針」以降「保護者支援」という用語が定着してきたが、2017年改定で「子育て支援」に変更されたこともあり、本稿では、子どもを中心とした子育て家庭に対する支援の意味として「子育て支援」を主に用いるが、2008年以前のこと、または保護者を特に意識する場合は「保護者支援」という用語も用いる。

2. 方法

2-1 文献レビューの方法

文献レビューは、論文検索データベースCiNiiおよびGoogle scholarで「保育者」「養成校」「大学」「子育て支援」「地域貢献」をキーワードに2017年8月まで検索を行って文献を収集し、それら文献に用いられている引用・参考文献にも目を通し、本稿テーマに直接関わる学生の参加実態が文中に認められる養成校の子育て支援事業に関する文献を選択した。なお文献は論文を中心とし、問題意識が明確な実践・事例報告、研究ノート等も含む。広く公開されず渉猟しにくく膨大にあると推測される各養成校の実践報告資料、学会発表資料等は参照したものもあるがリストからは除いた。また、原則、子育て支援事業の実施および学生の授業・指導の場所として養成校のキャンパス内に限定していない。自治体や地域の民間団体との共催、養成校付設の保育園・幼稚園・研究所等との共催の場合は養成校が事業運営と学生養成の主体となっている場合とした。但し、養成校教員が附属施設の職員を兼任する等、実態がよみとりにくい場合もある。結果として迷うものは除外せず加えている。

2-2 分類とサービスラーニングの視点

これら文献を内容が重なっているものはあるが中心主題によって大きく4つ、①プログラム・実践内容に関する文献（学生・保護者の感想・アンケート等を含む）、②学生の教育効果・授業に関す

る文献、③利用者の効果に関する文献、④地域連携に関する文献、で分類・整理する。そして、サービスラーニングの考え方を援用し、省察と互惠に関して重要と考える文献をとりあげ考察する。

「サービスラーニング」とは、ジョン・デューイ(Dewey,J.)の経験学習の思想や社会問題に対する市民運動・民主主義の発展の歴史的経緯のなかで1990年代から主に米国で発展してきた社会貢献活動と学習とを組み合わせた教育手法であり、プラグマティズムの教育哲学である。現在、多様な発展によりその概念は多義的に広がっているが、「省察reflection」と「互惠reciprocity」の二つを根本概念とする(Jacoby,B.,1996=2009,55)。

すなわち、地域社会で奉仕活動(サービス)に取り組みながら社会問題についての理解と学習を深める学生の利益と、地域社会にとっても社会問題解決・地域活性化の利益があるという互惠が目指されている。また、机上の学習では得にくい現場での生きた学びを重視しながらも、学生と現場双方が臨場感に流されないよう、現場と大学との緊密な連携の下、学生のリフレクション学習がプログラムとして構造化されているのが特徴である。最近では、特にコミュニティでの活動を「コミュニティ・サービスラーニング」といい、日本の大学・学校でも実践・検討されるようになってきている。

養成校の子育て支援とサービスラーニングに関する先行研究は僅かに認められる。後述する福井・小栗・瀧川(2009)の研究他、今津ら(2015)、弘田(2016)はサービスラーニングそのものに言及せずの学外での体験授業の実践報告である。

養成校の行う子育て支援事業の学生参加において、学内の事業も含め、なぜサービスラーニングの視点で捉えなおすのか。一つには、学内で行う場合でも地域の社会資源の一つである養成校がどうあるべきか、その知見が参考になること、二つ目には、サービスを受ける側と提供側・学習者双方の利益を成立させることは容易くはなく、ともすれば提供側が権力構造として強い立場になりやすい。互惠が成り立っているか、複数のステークホルダーの視点からチェックが必要だが、現在の養成校をめぐる研究ではこの視点が弱くなりがちなことである。

三つ目には、現場・体験学習の考え方のパラダイム転換の必要性である。サービスラーニングは、アクティブラーニング、PBL(problem/project-based learning)の手法の一つである(山田,2016)。

先行研究では子育て支援の実習化・必修科目化を今後、期待する意見も散見されたが、現在の法定実習指導と異なる経験と理論をつなぐ学習の新しい形態となり得る可能性を示唆する。

3. 結果—研究の全体的な傾向とその背景

検討した136本の文献(Table1.)のうち、中心主題・内容によって以下の結果となった。①プログラム・実践内容関連が66本、②学生の教育・授業関連が51本、③利用者関連は保護者研究中心で10本であり、うち子どもの方の対象研究はごく少ないことに留意したい。④地域連携の関連文献は9本である。

保育所の成り立ちの歴史を紐解くまでもなく2000年代以前、政策的には1990年代から保育現場では保護者支援を行っているといえるが(亀崎, 2014)、養成校が子育て支援事業に自ら取り組み、その研究・報告が目立ち始めるのは2000年以後である。今回、入手・内容確認できなかった数件の文献も2000年以後のものと確認している。

養成校の認識が変わる時期として大きく二つに分けられるだろう。第1期は2001年の児童福祉法改正にて保育士業務として保護者支援が明記され、2002年保育士養成課程改正による「家族援助論」、「社会福祉援助技術」科目等の新設以降である。2005年の保育実習指導のミニマムスタンダードにおいて学外実習で「家庭・地域連携」を学ぶと示されたが、実際、実習現場で学生が保護者と接する機会は限られ、実践機会をいかに保障するか問題意識が強まったといえる(石田・田中, 2011; 増田ら, 2015)。

第2期は2008年の改定「保育所保育指針」で保護者支援が重点課題として記載され、保育士養成課程科目「保育相談支援」の新設と「家庭支援論」、「相談援助」の科目名変更、および同年「幼稚園教育要領」の「子育ての支援」記載以降である。在園児の保護者支援とともに、地域の未就園児のいる子育て家庭に対する支援の必要性がいわれ、養成校も地域貢献として取り組み、養成課題についての問題意識がさらに強まる要因となる。とはいえ、養成校で取り組む場合の教員・大学負担は大きい。取り組んでいない養成校も少なくないなか模索しながら個々の実践報告が蓄積される状況が今に続く。

なお、家庭支援・保護者支援については保育現場の職員も養成校教員も実習中あるいは卒業まで

に学ばせることが難しいと感じているが、養成校教員の方が現場職員よりも比較的早い段階で、家庭の意義や機能、児童虐待への対応、子育て家庭のニーズに応じた支援体制と関係機関との連携及びソーシャルワークの方法と技術について獲得すべきと考えている傾向がある(全国保育士養成協議会, 2013)。

加えて、近年の国の高等教育政策のなかで大学の社会貢献・地域貢献が重視されるようになった流れが拍車をかけている。すなわち、2005年の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」、2012年の同審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて—生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ—」、2013年の文部科学省「地(知)の拠点整備事業」、2015年の同省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」等の動きである。

子ども・子育て支援新制度が2015年度より開始され、子育て支援をより強化する方向性が示された2017年3月の「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育要領」の各改定が行われた今後はさらにこの領域の研究と実践が拡大・深化され、新たな展開が予測される。

4. 考察

4-1 互恵性からの捉えなおし

4-1-1 複数の立場・側面からの評価の必要

サービスラーニングでは、学生、大学教員、地域、大学機関の四者の関係者のアセスメント(評価)が必要とされる。その理由として、法的に求められること、教育の説明責任に対する公的要請、管理者側の資源の活用とその説明責任、プログラムの改善が挙げられている。四者の関係者はそれぞれ異なる関心や期待をもってパートナーシップを結ぶ。そのため、複合的で意図的なアセスメント方略が必要とされる。ただ、サービスラーニングにおける米国の研究でも、特に、地域についての研究の障壁が大きく研究に偏りがみられ、地域をどう捉え評価するかが難しいとされている(S.ゲルモンら, 2001=2015)。

養成校の行う子育て支援はどのように評価すべきだろうか。利用者の親子、運営・学生指導を行う教員・有資格者職員等のスタッフ、そして学生、というように立場の異なる三者、あるいは、親子を、教員と職員とを分け、養成校組織を含めて

最大六者からの評価が考えられる。

この複数の関係者による複雑な相互作用は、例えば、石塚・並木・杉本(2009)の研究で確認できる。幼児と母親、学生との相互作用の観察と母親への質問紙調査から、学生が直接母親に関わっていても幼児の遊びの支援を人的環境として行うことで母親にも意義ある存在として捉えられていること等を明らかにしている。しかし、三者以上の多くの関係者との相互作用を捉えるには、より継続的・包括的・組織的な研究が必要になりかなり難しい。

学生と保護者双方の反応をアンケート等で確認しながら実践を行っている養成校は多いが、事業の内容、学生の参加の仕方・頻度によって左右され、学生と保護者相互のニーズの対立、特に子どもも含め互恵性を考え実践を見直すことが重要である。さらに学生同士、学生と教員との相互作用(齋藤ら, 2011)も重要な視点である。

また、地域の評価も重要である(吉田, 2008; 今泉ら, 2007; 小松, 2009)。小長野(2016)は地域の子育て支援機関と養成校との連携のうえ行った事業の事後のフィードバックから考察し、養成校が心配するよりも学生活動そのものが地域に喜ばれていること等、双方の視点の違いを明らかにしている。

須河内ら(2015)は地域の実情把握が重要とし、子育て支援利用保護者、児童館職員、行政職員、学生(卒業生)に対して各調査を行っている。その結果、地域で他の子育て支援資源も十分あるなかで能動的に子育て支援活動にかかわれる保護者が養成校を利用していること、各関係機関と連携をとっている児童館が養成校を協働対象として必ずしも捉えていないこと等が明らかになっており、情報提供・人と人とのネットワーク作りの方法開発、潜在的な利用者の掘り起こし・アウトリーチ、地域の実情・ニーズ把握に基づく貢献、学生の遊び力獲得と地域子育て支援事業の二つを可能にする教育プログラムの開発を養成校の求められる役割・課題としている。

佐久間(2012)は、子育て支援の評価として、支援者や職員による自己評価、利用者による利用者評価、客観的かつ専門的視点から第三者が行う第三者評価、うち第三者評価については事業評価、業務評価、適正評価を種別として挙げ、誰が評価するのかで評価の目的が異なってくるとしており、複数の立場・視点からの評価の必要性を指摘して

いる。

また、子育て支援は地域に根ざした取り組みであり、地域比較的な視点、地域社会にどのように還元されているかの視点による評価も重要であること、さらに、母親の育児不安感・負担感の軽減が単純に子育て支援の有効性の指標とされることへの疑問を投げかけ、どのように利用者の意識が変わったのかを評価していく必要性もあるとしている。保護者が他の地域子育て支援の資源を利用していたりすることもあり、養成校の事業を評価することの難しさがわかる。

この佐久間の視点とはやや異なるが、利用者・保護者の内面からの評価は常に一面的な評価でしかないことを念頭においておきたい。特に、ネグレクト傾向のある保護者、子どもや子育てについての理解が乏しいため問題認識が薄く支援の必要性がより高い保護者の存在を考えると、不安や負担を感じないことそのものが問題であることもあるからだ。また、親と子は原理的に利益相反することのある関係構造である。利用する子どもの対象研究が進んでいないだけに、保護者の心情が子どもの実態とどのように関連しているか注意深く評価すべきである。

4-1-2 地域に求められる養成校の役割

地域の視点が必ずしも抜けているわけでないが、3の通り地域連携を主題とした文献は少ない。そのなかでも、特に学外の子育て支援に学生が参加体験している場合、養成校と行政との共催、行政から委託を受けている場合等にその実態報告、課題検討がなされている傾向がある。

地域のなかでも特殊な大学・高等教育機関という場、広域地域対象、教育・研究機能をもち、他の民間団体などの行う子育て支援事業とは異なる面があるが、養成校が地域においてどのように位置づけられ、役割を果たしているといえるだろうか。先の須河内らの調査研究他、山本ら(2016)のように、地域住民の一部である利用者・保護者以外に、市町村行政、保育・教育施設、児童福祉機関・施設、医療・保健機関等の評価を含めることが望ましい。特に、社会資源の重複・競合が起こりやすい地域では留意し、養成校ならではの子育て支援が求められよう。

また、市町村計画や市町村ネットワークの一部として養成校の連携が問われることはいうまでもないが、自治体との連携は進んでいるところとそ

うでないところの地域格差が大きいと思われる。

4-1-3 利用する保護者層の把握

武内（2012）は、近年の幼児教育・保育原理テキストはじめ、養成校の子育て支援活動を含めた授業の有効性を論じる先行研究が、子育て支援の構造的問題を見過ごした理解をしており、対象理解が不十分でニーズ把握の問題があると指摘している。またそのことにより子ども向けの活動中心になり、活動が楽しかったかどうかの活動中心主義に陥ると理論軽視の状況を警告している。

3でみたように、確かに、利用者・保護者研究は進んでいない。また、地域の保護者の母集団を把握する地域研究は大掛かりになることもあり、養成校の子育て支援事業を利用する保護者層はどのような特徴があるのか、それは他の運営団体の事業と異なるのかどうか、少なくともその間いもあまり発せられていないのが現状である。

大学全入時代とはいえ、大学・短期大学等の進学率が現在でも決して高いわけではなく、今日の保護者世代にとって、大学等は親近感がある存在なのか疑わしい。個々の養成校の地域開放の程度、アクセスのしやすさ、自治体との連携、地域定着・密着度、人的・物的資源と専門性を有すると期待される過疎の地域等、前提が問われる。

また、一般的に、養成校主催・運営以外のものも含め地域子育て支援の場を利用する保護者は比較的子育て力のある保護者といわれる。若本（2016）の調査研究では、育児ストレスが動機になるのではなく、経済状況に余裕があり、夫からのサポート、積極性や活動性もある外的・内的資源に恵まれた女性の方が子育て支援を利用していることを見出している。

神田・山本（2001）の調査研究でも同様の結果が出ており、利用者として利用しない保護者の二極化現象がある。杉本・諸井（2010）、齋藤ら（2011）は、子どものためと教育熱心、学生の養成に協力的である、といった養成校の子育て支援を利用する保護者の特性を捉えているが上記の背景から理解しやすい。

4-2 学生の学びについての捉えなおし

4-2-1 地域子育て支援と子育て支援

北野（2009）はケア、教育、子育て支援の3つの養成機能を担う保育士養成校の調査から現状と課題を分析しているが、そのうち子育て支援の養

成課題について、個を対象とするのではなく子ども家庭福祉の観点、親の育ちをはぐくむ教育的観点が必要としている。この指摘された課題は現在も変わらない。特に、保護者対応・子育て支援において、ソーシャルワークの理解は進まず、コミュニケーション力、カウンセリングマインド、カウンセリング技術を重視する傾向は否めない。

福井ら（2008）は地域子育て支援センターの機能から考え、従来の保育技術を基盤としてソーシャルワークの機能を必要としながら、短期大学対象の「子育て支援力」の養成調査では学生の実践が難しいと調査項目から外している。

だが、長谷中（2009）は地域と協働し地域ボランティアと活動して子育てサロンを実施した学生の学びにおいて、ソーシャルワーク実践を展開できる力を養成できる可能性があるとする。また、森本・白幡（2005；2007）は学生（専攻科生）が地域資源の調査を行い、資源の活用方法、民間支援団体や保護者との協働によるプログラムの企画・立案・実施、親子との交流といった一連の教育実践を開発・報告しているが、地域子育て支援に必要なソーシャルワーク技術を育成するこのような実践報告は少ない。上記諸研究は対象学生が違い各養成期間の幅による養成内容、目指すレベルの違いもあるだろう。

そもそも流動的・不特定多数の保護者対応を想定するか、定期的に通う保護者との関係性構築を前提とするのかで、支援の技術・方法は異なる。地域の親子対象だから地域子育て支援というのではなく、地域子育て支援の方法と技術として何を学生に学ばせるのか明確に示している養成校研究は乏しい。

また、学外の事業に学生を体験させる「派遣」型（入江ら、2017）もあるが、養成校が行う以外のさまざまな種類の子育て支援の方法と実態をどのように教育するのも問われる。例えば、2012年に成立した子ども・子育て支援法に規定されている「地域子ども子育て支援事業」は13種類ある。地域子育て支援が意味するところが近年広範囲になり（日下・笠原、2016）、養成校で実践的に学ぶ必要のある地域子育て支援とは何か整理は追いついていないといえる。

入江ら（2017）は学生にとって子育て支援の場は支援を学ぶだけでなく保育を学ぶ場として広く捉えている。保育現場の実習期間が限られている学生の実際的なニーズであり、ある種の補完の位

置づけになっていると考えられる。そしてこのこと自体は、学生にとって大きな利益となると思われる。

ただ、従来のケアワークでは対応できない専門性が問われる子育て支援（安川，2014）において、保育、子育て支援、地域子育て支援の重なる部分と相違、学生が学ぶレベルを再度整理する必要がある。

4-2-2 養成段階で見込まれる「子育て支援力」

子育て支援を学ぶにあたり座学だけでなく実践が必要という論調があることは既に述べた通りである。三好（2016）の学生の「子育て支援力」の評価に関する先行研究レビューによると「子育て支援力」とは、親とのコミュニケーション力、保育者としての基本的な姿勢等を基盤とし子どもを保育する保育実践力と親の子育てを支援する力、ソーシャルワーク的な視点を持ち展開できる力、の3つで捉えられていると整理している。だが、学生の実践力をはかる具体的な尺度がなく、養成課程で育つ具体的かつ明確な指針が示される課題があるとしている。

ところで、「実践的に学ぶ」ということが何を意味するのか論者によって曖昧なところがあるが、学生が地域の施設を実際に知ることは重要と感じる。意外にも学生は保健センター、市役所といった地域住民に身近な施設でも具体的イメージ・理解が乏しい現状がある。自身が社会人になる、家庭をもつ、子どもをもつなどの経験を経て自然とこれらの施設をよく利用し理解することになるが、地域連携が重要な専門職養成においては課題があるといえる。

實川・砂上（2017）は、子育ての多様さにおいて現職子育て支援者の保護者対応における困難と学生が感じるそれは共通しているが、現職者と違い、学生は外部機関との連携について経験がないため困難を感じないが具体的手立てや目標とする地域子育て支援が見出せない特徴があるという。

後藤（2011）は養成校での学びは完成教育ではなく卒業後の現場での学びの成長を見通したものであり、養成校は子どもや保育の現状を構造的に把握し、様々な概念で捉えながら問題解決する土台の部分の部分を育てることにあるとしている。とすると、養成校での子育て支援を学習する限界と特性、特に後述する学生と保護者との関係性を捉えながら、学生の到達レベルを設定すること、外部機関

との連携については学生が実践することは困難であるが、まずはどのような機関があるか等を座学と見学でも学ぶことが必要であろう。

4-2-3 学生と保護者との支援関係

「支援」とは支援者と被支援者との関係構造のうえに成り立つものだが、学生は養成校の行う子育て支援において支援者となりえているのだろうか。学生の参加の仕方は様々であり、学生が主体的に企画・運営（小松ら，2016；佐久間ら，2012）、支援スタッフや教員の役割が大きくその補助としての学生参加、保護者との交流が限られることもある学生発表型などがあるが、いずれも学生を支援者と捉えることは可能だ。子育て支援は直接的な支援だけでなく、環境を整える等の間接的な支援も重要だからである。学生を既に未熟ながらも支援者とするのか、支援を学ぶ者であって支援者になりえていないと考えるのか、養成校の実態によって異なるだろう。

ただ、相手によって支援者と認められ、支援関係が成り立っているかは、保護者、子どもの観点から評価する必要がある。子育て支援領域における援助要請は、援助を求める相手によって援助内容が異なるとともに、相手をどのように認知するかによって援助要請行動が影響するという（永井，2016）。学生が特に学内で子育て支援事業に参加する場合は、保護者から学生と認められたうえでの関係である。

学生に対する保護者の役割期待はどのようなものだろうか。齋藤ら（2011）は保護者と学生のニーズの相補性を考察し、保護者は学生のことを将来の保育者として子育てを学ぶ者として期待と安心感をもって見守っているだけではなく、保護者自身が学生を育てる意識や保護者としての有能感を培うという効果があったという。それは、学生と保護者それぞれの年齢層や社会的立場を考えると自然なことといえよう。

一方、学生が保護者のことを単純に支援を求めている被支援者としてだけ見る学びになることは危険と思われる（實川・砂上，2017）。保護者とのパートナーシップを学び、そして、保護者同士が支えあい「専門家」を必要としない、専門家が介入してはいけない、専門・非専門性を超える世界もあることを知るべきであろう。

4-2-4 学習の新たな方法としての子育て支援事業の利用と省察

従来の実習は、カリキュラム上の想定にみられるように、養成校である程度学んだことを現場で応用・実践に移す、総仕上げ的な目的で位置づけられている。子育て支援の学生参加・授業も同じような位置づけで考えられなくもないが、入江ら(2017)は実習先の方針・内容に従う実習と違い、養成校の子育て支援事業では学生が主体的に活動できるとする。ただ実際は、各養成校によって運営の仕方、学生の役割は様々であり、どこまで主体的に活動できるかはわからないが、確かに可能性はある。また、福井ら(2009)は、子育て支援の体験学習をした学生の記録を分析し、省察の方法の詳細は不明であるが、従来の実習とは違う気づきがあり主体的な学びがあったとしている。

橘・小原(2014)の現役保育者対象の調査によれば、養成校で子育て支援を体験した者は約4割でボランティアとして体験した者が多く、うち、活動の計画・立案した者は2割にも満たない、活動の振り返りとして毎回話し合いを行った者や毎回記録を記入した者も2割台と少ない。「保護者との関係をつくる」「保護者の抱えている課題を知る」という学びは仕事に役立っていないことはないようだが、養成段階としては体験ただけで終わりとなりかねない現状がうかがえる。

一方、父親を含めての仕事や子育ての両立、障がいのある子どもの子育て等、子育ての多様さについて学びの効果があつた、とする研究もある(齋藤ら, 2016)。

体験および学習の方法はどのようにすれば学習効果が高いか、養成校の実態が多様なため、単純に比較できない。

サービスラーニングにおいては、経験、経験についての省察、総合と抽象的概念化、自発的な試行、というKolbの経験学習サイクルがよく用いられる(桜井, 2009)。経験して慣れることを重視する素朴な経験主義ではなく、混沌とした現場において個々人の経験が多様であることが前提であり、その時、その状況においての判断、経験、感情を振り返り認識させ、次の行動に移すという現場に入りながら学習する過程重視の考え方が見られる。現場に入る事前の学習はあるが、状況の中で学生が自ら考え獲得していくプロセスを後から振り返る、そのサポートを教員が行っている。

学内で子育て支援事業を行う場合、学外で学生

参加させる場合よりも学習サポートがしやすい利点が多い。もちろん学外の場合、新鮮さ、地域の実情、地域機関や施設を直接知る・感じることができる、教員に頼りにくい場面も多く学生の自立性と主体性が問われる経験は大きく、養成校自ら子育て支援事業を運営する負担もない。だが教員が学外団体と学習目的を設定してもらえるか交渉の手間や労力は大きく(木村ら, 2015)、学外団体の評価と学生評価との調整が必要となる。

対して、学内では学生を教員が直接観察・指導しやすい、子育て支援プログラムと学生の学習目的とを調整しやすい、学生は通いやすい、費用や保険の問題が少ないという利点がある。

学内の場合はこの利点を生かしつつ地域を含めた互惠の視点を取り入れ、学外の場合は、学外団体との委託調整においてより綿密な学習プログラムをたて省察に力をいれることが望まれる。

地域と連携し積極的に学生を地域で実践させるか、独自に子育て支援に取り組むかの二択ではなく、両方できる組織的・予算的余裕があればよいが、地域の実情に応じて養成校がサービスラーニングの互惠、省察の手法を取り入れることが現実的と思われる。

4-3 今後の展望

養成校の行う子育て支援事業がある種の模擬事業・模擬授業のようであっても、学生や利用者の相互の了解・契約が成立していれば互惠は成り立つ。だが、地域への視点、学生の社会問題の感覚、問題意識を培う事業と授業・指導のあり方が問われる。

すべての子育て家庭に子育て支援が必要とされるが、特に保育現場は、貧困や育児不安、虐待、障がいや疑われる子どもなど困難な家庭と養育問題に出遭い支援する場でもある。各種統計上決して少なくないこれら社会問題は知識とゆらぐ体験がなければ見えず感じられない。養成課程でゆらぐ体験まで望むのは限界だろうか。

先述したように、養成校の子育て支援を利用する保護者層は積極的に前向きに子育てを行い、学生の学習目的にも協力的という全体的な傾向がある。だが、本学事業での経験を振り返ると、子育てに不安や困難を感じる保護者や不安定な親子関係で学生の態度や行動にも影響を受ける親子が一部認められる。現在、本学の事業及び授業では参加対象学生・学年も限り、親子の抱える問題を考

え支援実践力をつける学習目標までは掲げず、倫理的問題も考慮し、当事者の生々しい問題に学生がむしろ触れないように慎重にしている。

学生の支援力育成を主目標とする他の養成校では、実際どのような親子が利用し、どのような保護者層として捉え学習目標を定めているのだろうか。親子の深刻な問題が明らかになった場合の養成校の対応実態は不明である。たとえ一部であれ親子や学生がゆらぐ体験以上にお互い傷つくことはないか、場合により他の適切な地域の社会資源に親子をつなぐ支援が望まれる。

加賀谷ら(2015)の学生調査では、経験に頼らず保護者支援に必要な知識や保育の知識、座学で学んだことがどのように現場につながるかのヴィジョンをもたせる重要性が指摘されている。子育て支援事業のなかで学生に問題に気づかせる限界があるとすれば、例えば、苦しさを乗り越えた子育て経験者に話を聞く機会を他の授業などで別途設けるなどしてまず学生が問題を知り、視点をもって子育て支援事業で体験する。そこで生じた疑問やゆらぐ体験を振り返る、抽象化して知識と結び付け学びとして定着させることは考えられる。

今後、養成校が協力的な保護者と地域との協働から、実態把握が難しい未就園児の保護者研究が進むことが期待される。実践研究の蓄積から、より苦しい親子への支援が進み、学生の養成が充実することで支援者の質量確保の可能性は高い。養成校はそのためにもサービスマーケティングの視点で、学生が子育ての喜びと苦しさ、地域問題を学び感じとり、子育て支援事業の社会的意義・意味を理解する学習機会を提供できるか、支援を必要とする社会的弱者を見落とししていないか等、省察する必要がある。

〔引用・参考文献 (Table1.の文献除く)〕

福井逸子・小栗正裕・瀧川光治(2008)『『子育て支援力』育成のための保育士養成教育に関する研究(1)―短期大学へのアンケート調査の分析を通して―』『北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要』(1)、135-150

Gelmon,S.B.,Holland,B.A.,Driscoll,A.,Spring,A. and Kerrigan,S.(2001).Assessing Service-Learning and Civic Engagement:Principles and Techniques,Campus Compact山田一隆監訳・市川享子・齋藤百合子・福井里江・村上徹也・中

原美香訳(2015)『社会参画する大学と市民学習―アセスメントの原理と技法』学文社

後藤範子(2011)「4年制大学における保育士養成教育と資質能力向上に関する一考察」『東京家政学院大学紀要』51、23-30

入江礼子・小原敏郎・白川佳子編著(2017)『子ども・保護者・学生が共に育つ 保育・子育て支援演習～保育者養成校で地域の保育・子育て支援を始めよう～』萌文書林

石田開・田中まさ子(2011)「保育者養成課程の学外実習における保護者に関する経験の頻度―保護者とのコミュニケーションスキル育成への手がかりとして―」『岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要』43、161-173

Jacoby,B.(1996)'Sevice-Learning in Today's Higher Education'.in Jacoby,B. et al. Service-Learning in Higher Education:Theory and Practice,Jossey-Bass Publishers.pp.3-25.「こんにちの高等教育におけるサービスマーケティング」桜井政成・津止正敏編著(2009)『ボランティア教育の新地平―サービスマーケティングの原理と実践』51-79、ミネルヴァ書房

加賀谷崇文・高橋貴志・寺澤美彦・望月雅和(2015)「保護者支援のできる保育者養成に関する研究―保育者養成校の学生に対する意識調査から」『子育て研究』5、30-40

亀崎美沙子(2014)「保育所における保護者支援の歴史的展開―保育所保育指針の分析を手がかりに―」『保育士養成研究』31、11-20

神田直子・山本理絵(2001)「乳幼児を持つ親の、地域子育て支援センター事業に対する意識に関する研究―子育て支援事業参加者と非参加者の比較から」『保育学研究』39、216-222

木村志保・津田尚子・小口将典・立花直樹・仲宗根稔・西元直美(2015)「保育士養成における体験学習の実施状況及び教育効果に関する検討」『関西福祉科学大学紀要』18、87-93

北野幸子(2009)「ケア・教育・子育て支援を担う保育士養成の実態と課題」『社会福祉学』50(1)、123-133

日下慈・笠原正洋(2016)「地域子育て支援策の変遷―支援者の専門性を中心に―」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部 研究紀要』48、7-22

増田まゆみ・小櫃智子・佐藤恵・石井章仁・高辻千恵・爾寛明・尾崎司・倉掛秀人・若山剛(2015)「保育所実習における保護者支援の学びを可能に

- する実習指導のあり方について～保育者と養成
校教員の意識の分析を通して～』『東京家政大学
研究紀要』55(1)、39-47
- 三好年江「保育者養成課程における子育て支援力
の評価に関する研究—先行研究のレビュー—」
『新見公立大学紀要』37、99-106
- 永井知子（2016）「子育て支援領域における援助要
請研究の概観と今後の課題」『四国大学紀要』（A）
46、69-80
- 小原敏郎・中西利恵・直島正樹・石沢順子・三浦
主博（2016）「保育者養成校がキャンパス内で行っ
ている子育て支援活動に関する調査研究」『国立
女子大学家政学部紀要』62、153-163
- 大元千種・大鶴香・洪田登美子・原田博子・森田
理香（2010）「大学における地域支援に関する調
査報告—子育て支援と発達支援を中心として—」
『筑紫女学園大学・短期大学部人間文化研究所年
報』21、195-208
- 佐久間路子（2012）「子育て支援をいかに評価する
か」『地域と子ども学』（5）、40-47
- 桜井政成・津止正敏編著（2009）『ボランティア教
育の新地平 —サービスラーニングの原理と実
践』51-79、ミネルヴァ書房
- 武内裕明（2012）「近年の幼児教育・保育原理テキ
ストに見られる子育て支援の内容分析」『弘前大
学教育学部紀要』108、115-121
- 塚本美知子・藪中征代編著（2015）『わたしたちの
社会貢献の学びと実践 学生と地域をつなぐ子
育て支援』萌文書林
- 安川由貴子（2014）「地域子育て支援拠点事業の役
割と課題—保育所・保育士の役割との関連から
—」『東北女子大学・東北女子短期大学紀要』53、
79-88
- 若本純子（2016）「誰がどのように子育て支援を利用
してきたのか—わが国の子育て支援における
課題—」『佐賀大学教育学部研究論文集』1(1)、
1-9
- 山田一隆（2016）「米国高等教育におけるサービ
スラーニング —市民学習と学習成果をめぐる
政策と評価枠組みの概観—」『政策科学』23(3)、
113-136
- 全国保育士養成協議会（2013）『保育者の専門性に
ついての調査—養成課程から現場へとつながる
保育者の専門性の育ちのプロセスと専門性向上
のための取り組み—』（平成24年度 専門委員会
課題研究報告書）

Table.1

分類	著者名	年	論文名	所収
1	清水玲子・角藤智津子・広澤洋子・羽生田讓・星永	2003	保育士養成校における地域子育て支援の試み	保育士養成研究(21)、67-74
1	石井章仁	2005	保育士養成校における子育て支援の専門性を培うための体験的学習について—おひさま広場の活動を通じて	保育士養成研究(23)、21-30
1	梶浦真由美・清水貴子	2005	子育て支援における保育士養成校の役割—本学幼児教育学科における実践を通して—	北海道文教大学研究紀要(29)、29-38
1	金田利子・山路憲夫・瀧口美智代	2005	大学での「世代間交流広場」の実践—地域における子育て支援・相互発達をめざして—	白梅学園大学・短期大学 教育・福祉研究センター研究年報10、4-23
1	森本美絵・白幡久美子	2005	学生参画型地域子育て支援の計画と実践	保育士養成研究(23)、41-49
1	梶浦真由美・鍛冶紀美子・清水貴子	2006	保育士養成校における子育て支援に関する研究(1) —学生のレポート分析を通して—	北海道文教大学研究紀要(30)、45-54
1	佐々加代子	2006	保育者養成と子育て広場—1年半の体験学習からの検討—	白梅学園大学・短期大学 教育・福祉研究センター研究年報11、3-21
1	瀧口優・瀧口美智代	2006	学生が生きていく子育て支援	白梅学園大学・短期大学 教育・福祉研究センター研究年報11、22-32
1	古橋紗人子	2007	大学における子育て支援活動の研究—「すみれがーでん」の実際と展望—	滋賀女子短期大学研究紀要32
1	池田昭子	2007	保育科における学生の子育て支援の必要性における一考察	関西女子短期大学紀要16、115-125
1	今泉明美	2007	音楽表現活動を通しての子育て支援の活性化への取り組み ①市民公開講座「絵本の世界を音楽で表現しよう」②音楽表現ゼミの小田原市子育て支援フェスティバル活動への参加	研究紀要37、99-116(小田原短期大学)
4	今泉明美・吉田眞理・佐藤康富	2007	養成校における互恵性のある子育て支援の取り組み	研究紀要37、132-146(小田原短期大学)
1	森本美絵・白幡久美子	2007	「学生参画地域子育て支援」の定義にむけて	名古屋短期大学研究紀要45、175-189
2	大方美香・栗山誠・渡辺俊太郎・大垣和永・要正子	2007	学生の現場力を育成する、養成校の子育て支援の在り方—こどもフェスティバルに見られた学生の意識の変化—	大阪総合保育大学紀要(2)、91-108
1	立本千寿子	2007	子育て支援としての「出前保育」における音楽遊び—短期大学と保育園の関わりによる2歳児の事例を通して	大阪女子短期大学紀要32、65-73
2	田村滋男・桜井琴音・田中麻里	2007	保育者をめざす学生と子育て支援—「親子いきいき広場」の教育効果	永原学園佐賀短期大学紀要38、167-175
1	若杉雅夫・篠田美里	2007	地域社会とともに育てる保育者養成—ボランティア活動を通して育てる学生の責任感と主体性	保育士養成研究(25)、9-18
2	吉田眞理	2007	地域子育て支援に強い保育者の養成に関する研究	研究紀要37、132-146(小田原短期大学)
1	櫃田紋子	2008	子育て支援における「ひろば」機能に関する一考察	浦和論叢(浦和大学・浦和短期大学部) 38、49-62
1	古賀理・小川鮎子・牟田常文・松本勇治・村岡直子・東内瑠里子・吉牟田美代子	2008	保育士養成校による子育て支援者養成の展開と課題	佐賀女子短期大学研究紀要 第42集、11-18
2	政次カレン	2008	コーヒーモーニング：多文化体験がもたらす学生への教育効果	活水論文集51、1-13
1	松田順子	2008	地域における保育者養成校の役割 大学発—子育て支援の評価と考察—	研究紀要12、23-36(東九州短期大学)
2	中西利恵・大森雅人・原口富美子	2008	「子育て支援」の実践力を高める保育者養成方法の研究(その1) —実践プログラム作成に向けて教育効果の検討から—	相愛大学研究論集24、215-239
1	柴倉初美・塩見優子・加藤由美・藤井伊津子	2008	子育て支援事業「なかよし広場」の取組—子ども・保護者・学生の相互作用からみた支援のあり方	順正短期大学研究紀要37、85-103
2	白幡久美子・森本美絵	2008	学生と親との協働による地域子育て支援の効果—「子育て支援実践」科目への評価から	名古屋短期大学研究紀要46、151-163
2	須永進	2008	実践報告「子育て支援」の学習プログラムとその効果について	藤女子大学紀要45(Ⅱ) 51-59
1	谷出千代子・山下明美・笹谷隆弘・岸松静代・池田涼子・西尾章・徳永崇	2008	学生の協働活動を軸にした地域子育て支援型実践教育の試み(1) —キーワード「絵本」による「ものづくりワークショップ」の役割と父親像—	仁愛女子短期大学研究紀要40、65-73
1	若山哲・山口美和	2008	大学と地域ネットワークとの協働による子育て支援—児童文化財の新たな形としての子育て広場のあり方を考える—	上田女子短期大学紀要31、69-80
1	渡辺俊太郎・大方美香・栗山誠・要正子	2008	大学による地域子育て支援の試み—養育者を対象としたプログラムと子育て相談活動の実践—	大阪総合保育大学紀要(3)、113-124
1	吉田眞理・今泉明美・佐藤康富	2008	「おだっこひろば」と「おだっこワークショップ」の展望—実践記録の分析から—	小田原女子短期大学研究紀要(38)、62-75
2	福井逸子・小栗正裕・瀧川光治	2009	「子育て支援力」育成のための保育士養成教育に関する研究(2) —サービスラーニングにおける学生のジャーナルの分析を中心に—	北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要(2) 第1分冊、65-76
2	長谷中崇志	2009	地域を基盤としたソーシャルワーク実践を展開できる保育士養成プログラムの開発—地域社会との協働による学生参加型子育て支援の実践—	名古屋柳城短期大学研究紀要(31)、145-151
1	石塚広美・並木真理子・杉本信	2009	子育て支援事業における学生参加の意義—「親子サロン」での「母と子の活動」への支援を通して—	乳幼児教育学研究(18)
1	神永直美	2009	保育者養成短大における地域子育て支援の取り組み	茨城女子短期大学紀要36、71-54
1	川邊浩史・米倉慶子・田中麻里・川邊久美子	2009	保育者をめざす学生と子育て支援(2) 新校舎を利用した実践報告	永原学園西九州大学短期大学部紀要40、125-130
1	河田貴子	2009	子育て支援についての一考察—本学における子育て支援「母と子のふれあいあそび“ステラマリス”」実践報告	神戸海星女子学院大学研究紀要48、125-145

保育者養成校の行う地域子育て支援事業の捉えなおし

2	中西利恵・大森雅人	2009	「子育て支援」の実践力を高める保育者養成方法の研究(その2) —特に親と対話する力を高めるための教育方法の開発—	相愛大学研究論集25、169-192
1	椎山克己・萩尾ミドリ	2009	保育者養成校における子育て支援の意義について	久留米信愛女学院短期大学研究紀要(32)、41-48
1	須永進	2009	「子育て支援」の親支援とその指導に関する実践報告	藤女子大学QOL研究所紀要4(1)
1	田頭伸子・宮田保江	2009	保育者養成校における子育て支援活動 —体験学習としての実践—	広島文化学園短期大学紀要(42)、51-58
1	武山隆子・滝川孝子・高橋一行	2009	養育力をエンパワーメントする環境づくりと活動の展開—子育て支援室における取り組みと保護者、学生の学び	武蔵野大学人間関係学部紀要(6)、229-243
2	馬見塚珠生・竹之下典祥	2009	学生の地域子育て支援ひろばへの参加による心理的变化とひろば自体の変化に関する考察(その1)	京都文教短期大学研究紀要48、30-43
1	吉見昌弘	2009	大学を拠点とした子育て支援活動の展開と課題	愛知教育大学 幼児教育研究14、81-89
2	福井逸子・小栗正裕・柴田智世・瀧川光治	2010	「子育て支援力」育成のための保育士養成教育に関する研究(3) —3年間の継続研究を通してモデルシラバスの提示を行う—	北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要(3)、79-90
1	片山知子・松浦浩樹・大下聖治・齋藤純	2010	子育て支援における保護者のニーズと保護者理解—比較検討と協同可能性を探る—	和泉短期大学研究紀要31、1-21
3	佐久間路子	2010	利用者にとってころころの森とは—第2回利用者評価アンケート調査結果報告—	地域と子ども学(2)、10-18
3	杉本信・諸井泰子	2010	保育者養成校の子育て支援事業に参加する母親の育児ストレスと援助要請行動との関連	有明教育芸術短期大学 紀要(1)
2	瀧口優	2010	白梅子育て広場と学生の地域意識	地域と子ども学(3)、22-27
2	馬見塚珠生・竹之下典祥	2010	学生の地域子育て支援ひろばへの参加による心理的变化とひろば自体の変化に関する考察(その2)	京都文教短期大学研究紀要49、32-49
3	柳瀬洋美	2010	大学における乳児期・子育て支援グループ活動 I—親支援・家族支援の場としての「子育てひろば」—	東京家政学院大学紀要50、1-12
2	土居隆子	2011	子育て支援力を育む授業内容の検討—学生の意識変容から—	活水論文集54、63-80
2	萩尾ミドリ・池田可奈子・椎山克己	2011	保育者養成校における子育て支援活動の実際と学生への教育的効果	久留米信愛女学院短期大学研究紀要(34)、117-124
3	伊崎純子	2011	地域子育て支援事業「みんなのわ ひろば」に参加した保護者の育児ストレスの特徴	白鴎大学教育学部論集5(2)、385-394
1	石川正子	2011	保育者養成校における子育て支援の取り組み	盛岡大学短期大学部紀要21、23-31
2	三好年江・逸見晶子	2011	ノンプログラム型「親子交流ひろば」における自主実習の効果と課題	新見公立大学紀要32、143-149
1	森下順子・室みどり	2011	大学と子育て支援センター連携による子育て広場 平成21年度の試み	和歌山信愛女子短期大学・信愛紀要(51)、67-73
1	齋藤純・松浦浩樹・大下聖治・片山知子・相馬靖明	2011	保育者養成校が行う子育て支援プログラムの展開 —学生の参加ニーズを捉えて—	和泉短期大学研究紀要(32)、9-27
2	竹之下典祥・馬見塚珠生	2011	学生の地域子育て支援ひろばへの参加による心理的变化の質的調査研究—S C A T法導入による実習体験過程の理論的仮説生成の試み—	京都文教短期大学研究紀要50、70-81
1	塚本久仁佳	2011	保育者養成校における子育て支援の試み：未就学児の託児を通して	釧路短期大学紀要(38)、1-6
1	吉村壮明・山城真紀子・川西康裕・大山伸子・大城りえ・赤嶺優子・照屋建太	2011	保育科学生による地域親子支援事業(2009年度ワイワイプラザinキリ短)	沖縄キリスト教短期大学紀要(39)、123-138
2	古田康生	2012	大学を核とした子育て支援事業への参加が学生相互の気づきに与える影響—異学年集団によるIPU子育て支援事業「わくわくキッズ広場」への参加を通して—	環太平洋大学研究紀要5、135-142
3	広瀬健一郎	2012	ワークショップ型子育て支援事業を通じた保育者養成教育実践の課題—保護者は、「こども講座」に、何を期待し、何に満足したのか?—	国際人間学部紀要(18)、37-51(鹿児島純心女子大学国際人間学部)
1	保坂遊・石森真由子・松村万里子・木村昭代・小野真喜子・加藤和子・佐藤万利子・片岡彰	2012	保育者養成校における子育て支援活動の試み —保護ニーズと学生の学びからのプログラム検討—	聖と学園短期大学紀要(49)、1-17
2	香川実恵子	2012	保育者養成校における子育て支援食育活動と学生の学び：English Kitchenの企画を通して	松山東雲女子大学人文科学部紀要20、1-15
3	木村美知代	2012	地域との連携の必要性と課題：保育者養成大学における「地域子育て支援団体との協働事業」の視点から	同朋福祉(18)、91-111
2	木村龍平・花園誠・大沢裕・神戸洋子・浅倉恵子	2012	学生の「子育て支援活動」参画による保育実践力の教育効果の検討	帝京科学大学紀要Vol.8、203-212
2	三輪聖子・木澤光子・梶浦恭子・馬淵知子	2012	子育て支援の託児・ベビーマッサージを通して得た学生の学び	岐阜女子大学紀要41、143-150
2	森下順子	2012	子育て広場における学生の学びと課題	和歌山信愛女子短期大学・信愛紀要(52)、13-20
3	野間口朝子・佐々木美智子	2012	中村学園大学発達支援センター「親子教室」の子育て支援効果に関する研究	中村学園大学発達支援センター研究紀要1、29-38
2	佐久間路子・瀧口優・草野篤子・小松歩	2012	「子育て広場特論」を通しての学生の学びと課題	白梅学園大学・短期大学 教育・福祉研究センター研究年報17、47-53
4	指田利和	2012	こども教育宝仙大学と東京都中野区との地域連携について—保育者養成・子育て支援・地域社会—	こども教育宝仙大学 紀要3
4	上村晶・梶美保	2012	地域と協働する保育者養成校のあり方に関する一考察：子育て支援ネットワークの構築をめざした事業参画を通して	高田短期大学育児文化研究(7)、17-28
1	浦川未子	2012	地域における保育者養成校の役割：子育て支援体制の構築に向けて	長崎女子短期大学紀要(36)、30-36

1	山崎敦子	2012	保育者養成校の学生と子育て支援センターとの連携の在り方について：「保育実践演習」におけるペーパーサートを使用した活動を通して	東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部紀要(43)、123-130
4	平松紀代子	2013	保育者養成校における地域貢献としてのひろば事業に関する一研究	京都聖母学院短期大学研究紀要42、113-124
1	石田裕子・石田伸子・潮谷光人	2013	奈良市子育て支援センター「ゆめの丘SAHO」からの報告	奈良佐保短期大学研究紀要21、51-61
2	五十嵐淳子	2013	保育者養成校における保護者支援の学びの現状	白鷗大学教育学部論集28(1)、297-308
1	片山知子・大下聖治・相馬靖明・松浦浩樹・矢野由佳子	2013	養成校における子育て支援 ―学生と参加親子との実践的關係の場として―	和泉短期大学研究紀要(33)、7-16
1	河合高鋭・片山知子・佐藤美紀・大下聖治・矢野由佳子・松浦浩樹	2013	養成校における子育て支援 ―学生の変容と担当教員の気付きに着目して―	和泉短期大学研究紀要(34)、101-117
1	丸谷充子・市川美恵子・大久保秀子・伊志嶺美津子・樺田紋子・菅野陽子・船木美佳・五十嵐裕子・柴田崇浩	2013	浦和大学子どもコミュニティセンターにおける親子並行プログラムの意義に関する一考察―参加者アンケートの結果から―	浦和論叢(浦和大学・浦和短期大学部)(48)、63-82
2	三輪聖子・木澤光子	2013	子育て支援の託児・ベビーマッサージを通して得た学生の学び(第2報)	岐阜女子大学紀要42、115-120
1	澁谷由美・古川洋子	2013	“子育て支援”に関するとりくみ(1) ―養成校の現状―	愛知学泉大学・短期大学紀要48、59-66
1	矢萩恭子	2013	2歳児保育室「あそびば『ほこあ』」における成果と課題～保育実践力養成と子育て支援の相互機能の側面から～	田園調布学園大学紀要(8)、79-102
2	柳瀬慶子・鷺見裕子	2013	親子を対象とした食育支援活動における保育学生の意識と学びに関する研究	高田短期大学紀要31、61-72
1	古橋紗人子・奥田恵子	2014	子育て支援活動「すみれがーでん」10年の歩み―乳幼児総合研究所・学生参加・振り返りと展望―	滋賀短期大学研究紀要39、101-114
2	平松紀代子	2014	保育者養成校で保育士の専門性を高める試み～地域子育て支援プログラムの一時保育の体験を通した「反省的实践」～	京都聖母学院短期大学研究紀要43、45-58
2	池田孝博	2014	保育現場との連携活動による保育者養成の実践的教育と地域貢献―身体運動に関する指導および支援活動を通して―	福岡県立大学人間社会学部紀要23(1)、1-12
2	川村祥子	2014	保育者養成学生の「地域子育て支援」への参加：「保育者の専門性」を形成するための保育実践経験の有効性	こども教育研究所紀要(10)、9-19
1	菅野陽子・五十嵐裕子・丸谷充子・大久保秀子・船木美佳・柴田崇浩	2014	親子のひろば「ほっけ」における学生と親の育ち ―こども学部学生の保育参加の意義―	浦和論叢(浦和大学・浦和短期大学部) 51、25-50
3	木澤光子・長屋郁子・三輪聖子	2014	子育て支援ママパパアゴラ「らくちん子ども食」の取り組み―参加動機と満足の影響する要因―	食文化研究1、19-25
2	三輪聖子・木澤光子	2014	子育て支援を通した学生の学びに関する研究	岐阜女子大学紀要43、105-112
2	須永進	2014	子育て支援論の構築化に関する研究―保育者養成教育の試案―	三重大学教育学部紀要65 教育科学、141-148
2	橋千里・小原敏郎	2014	保育者の子育て支援力の養成に関する研究―養成段階からの学びの連続性に着目して―	日本家政学会誌65(8)、415-422
3	富田道子	2014	広島都市学園大学地域子育て支援拠点事業の役割に関する考察―利用者への質問紙調査から―	広島都市学園大学 子ども教育学部紀要1(1)、61-70
1	塚本久仁佳	2014	保育者養成校における子育て支援の試み(2) 地域との連携を目指して	釧路短期大学紀要(42)、33-39
2	若杉雅夫	2014	造形遊びの親子支援における保育者・教育者養成の力量形成の成果：子育て支援活動「あそびの森」の検証から	東海学院大学短期大学部紀要(40)、93-106
1	今津孝次郎	2015	〔実践報告〕教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の試み	東邦学誌44巻1号 211-232
2	勝間田明子	2015	教職実践演習に関する一考察―子育て支援室の環境構成に対する気づきに着目して―	鈴鹿短期大学紀要35、75-84
1	熊田凡子・山森泉	2015	大学における子育て支援の取り組み(1) ―北陸学院大学における「赤ちゃん・サロン」の試行と環境づくり―	北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要(8)(2015年度) 33-44
1	松原敬子	2015	子育て支援における学生の育ち	植草学園短期大学研究紀要(16)、31-37
1	三好年江	2015	地域協働型子育て支援「にいみ子育てカレッジ」におけるアウトリーチの考察―遠隔地域Aでの三世交代事業―	新見公立大学紀要36、89-93
2	森本美佐・小川純子・高橋千香子	2015	本学の子育て支援活動と学生教育との接続	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部、121-128
1	齊藤美代子・遠藤純子・橋田美千代・園川緑・韓仁愛	2015	保育者養成校における子育て支援の実践と課題	帝京平成大学紀要26(2)、253-266
2	佐藤美紀・松山洋平・河合高鋭・矢野由佳子・横川剛毅・片山知子	2015	保育者養成校における子育て支援―学生の主体を支える教員の視点に着目して―	和泉短期大学研究紀要(36)、43-57
4	須河内貢・柏原栄子・河野淳子・土肥茂幸・中村かおり	2015	4年制保育者養成校としての地域貢献活動構築に向けての基礎的研究	大阪人間科学大学紀要14、87-107
1	矢野由佳子・片山知子・河合高鋭・松山洋平・佐藤美紀・松浦浩樹	2015	養成校における子育て支援―参加家族と学生の主体的な活動に着目して―	和泉短期大学研究紀要(35)、111-126
1	弘田陽介	2016	商店街と大学と家庭とをつなぐ―大阪・駒川商店街内子育て支援スペース「JONAN こどもひろばKomaクル」のチャレンジ―	大阪城南女子短期大学紀要50、157-178
2	池内昌美	2016	保育者養成校における学生の乳児理解への検討―学生の子育て支援の参加活動を通して―	西山学苑研究紀要11、35-45
2	今村民子	2016	保育者養成校における子育て支援の演習授業の現状と課題 子育てサロン“ぶっぶあ”の実践例を手がかりとして	大垣女子短期大学紀要57号、31-40

保育者養成校の行う地域子育て支援事業の捉えなおし

2	石田慎二・西村真実・岡澤哲子・清水益治	2016	DVDを用いた子どもとの関わり記録作成の効果V つどいの広場での実習経験と保育所での実習経験の関係	帝塚山大学現代生活学部子育て支援センター紀要(1)、67-74
2	石川正子	2016	子育て支援活動に参画した学生の学び	盛岡大学短期大学部研究紀要26(39)、1-8
2	叶内茜・永瀬祐美子・福元真由美・田代幸代・木暮ゆり・倉持清美・吉田伊津美	2016	保育教諭の養成における実習経験の成果と課題：附属幼稚園未就園児の会「にこにこふ～よん」をフィールドにして	東京学芸大学紀要。総合教育科学系、67(1)、81-92
1	川村高弘・廣田周子・桐原美恵子・庄司圭子・水島賢太郎・塚田みちる・永井久美子・長谷川美和・島山由佳子	2016	子育て支援に向けての保育者養成校と保育園の連携―「きずなDAY」の事例より―	神戸女子短期大学 論叢61、89-97
1	小松歩・瀧口優・佐久間路子・森山千賀子・井原哲人	2016	白梅子育て広場10年の成果と課題	白梅学園短期大学教育福祉研究センター研究年報21、62-82
1	新山順子・京林由季子・榎本千里・高橋多美子	2016	大学を拠点に保育者志望学生と他世代が交流する新しい子育て支援の実践―「そうじゃ子ども大学」の事例から―	岡山県立大学教育研究紀要1(1)、41-51
2	岡澤哲子・清水益治	2016	子育て支援事業へのボランティア参加学生の学びについて	帝塚山大学現代生活学部子育て支援センター紀要1、49-54
4	小長野隆太	2016	保育者養成校における地域貢献・子育て支援活動の可能性に関する一考察：「出前保育」プロジェクトを中心に	鈴峯女子短期大学人文社会科学研究集報63、127-146
2	齋藤勇紀・神澤絢子・竹村香・堤幹雄・氏原理恵子・湯澤ちふ美	2016	保育者養成校の学生が子育て講座への参加から得られた学びの効果 ―テキストマイニングを用いた自由記述からの検討―	社会福祉科学研究5、205-210
1	澁谷由美・古川洋子	2016	養成校における“子育て支援”に関するとりくみ―その意義と課題―	愛知学泉大学・短期大学紀要51、21-28
1	椎山克己	2016	地域子育て支援拠点事業「信愛つどいの広場」の現状と課題	久留米信愛女学院短期大学研究紀要(39)、45-50
2	竹之下典祥・馬見塚珠生	2016	学生の地域子育て支援ひろば実習から得られた保育士養成の課題	盛岡大学紀要(33)、43-52
4	山本一成・中山美佐・村井尚子	2016	大学と自治体のコラボレーションによる「子育てカフェ」の実施と検証：地域に根差した子育て支援を目指して	大阪樟蔭女子大学研究紀要6、211-219
3	長谷川美香	2017	母親が求める支援に応えられる保育者育成への一考察：福島の子育て支援校は何をすべきか	行政社会論集29(3)、51-77
2	狩野奈緒子・長谷川美香・市川優	2017	子育て支援広場における学生の「子育て支援力」育成の試み―「親子クッキング」を活用したアクティブラーニング―	桜の聖母短期大学紀要41、37-65
1	小島佳子	2017	保育者養成短期大学を拠点とした地域子育て支援の場づくり―「すずたん広場」の運営を通して―	鈴鹿大学短期大学部紀要37、184-195
2	小屋美香・星野真由美	2017	学生の子育て支援活動と教育的効果に関する考察	育英短期大学幼児教育研究所紀要(15)、10-23
2	栗原ひとみ・広瀬由紀・實川慎子	2017	発達支援教育学科における初年次教育の体験学修―附属子育て支援センター体験の成果と課題報告―	植草学園短期大学研究紀要9、87-99
2	長樽涼子・吉田美奈	2017	「どんぐり広場」運営に至るまでの準備学習と学生の学び	上田女子短期大学紀要(40)、13-21
1	中村礼佳・丸田愛子	2017	子育て支援講座における音楽遊びの実践	南九州地域科学研究所所報(33)、65-72
4	中野明子	2017	高梁市子育て支援センターにおけるサービスをつなぐ力―「吉備国際大学たかはし子育てカレッジ」事業の活動から見えてきたもの―	吉備国際大学研究紀要(人文・社会科学系)(27)、39-54
2	奥田美由紀・長谷川美香	2017	学生の学びをより深めるための保育実践の質向上を目指して 第1報―子育て支援広場の環境づくりの実践と課題―	桜の聖母短期大学紀要41、1-35
1	小野真裕美	2017	子育て支援として常葉大学浜松キャンパス内親子教室において実践される食育についての一考察―栽培保育・調理保育を通して―	常葉大学健康プロデュース学部雑誌11(1)、65-72
4	柴田卓・伊藤哲章・早川仁・古川督・猪股照子・仲西真美子・三瓶令子	2017	保育者養成校における地域連携に関する研究 ―学生の学びと地域貢献に着目して―	紀要53、207-224(郡山女子大学)
2	實川慎子・砂上史子	2017	保育者養成課程の地域子育て支援実習における学生の困難感―学生の保護者理解と保護者へのかかわりに注目して―	千葉大学教育学部研究紀要 65(Ⅱ) 人文・社会科学系、327-334
1	Z. 山田章子・鎌田雅史・松本希・伊藤優・荊木まき子・笹倉千佳弘・柴川敏之・秋山真理子・澤津まり子・田中誠	2017	保育学生による地域子育て支援の取り組み―2016年度活動報告―	就実論叢第(46)(就実大学・就実短期大学)、186-198
1	矢野由佳子・片山知子・松山洋平・佐藤美紀・久保小枝子	2017	養成校における子育て支援―支援者に求められる専門性とは―	和泉短期大学研究紀要37、81-92

